

その他 (まとめ)

銀行とはどういうものか、ということを経験的な所から学習してきた。

銀行とは・・・銀行は信用制度の中心に位置し、**貨幣取引**と一体化して営み、銀行信用通貨を供給する金融機関である。貨幣取引というのは、貨幣流通上の技術的操作のことであって、貨幣の流通を管理、媒介・促進する取引、すなわち具体的には、送金、両替、代金取立て、**地金**売買など、またより発展した形態としては**預金・発券・為替**などの取引のことである。

貨幣取引は、発券取引と預金取引に大別される。発券取引と貸付取引とが一体化したものととして**発券銀行**が、また預金取引と貸付取引とが一体化したものととして、**預金銀行** (**商業銀行**、**普通銀行**などと通常呼ばれる) が生じる。

今日では、発券銀行は、中央銀行となっているから、各国の銀行組織は、中央発券銀行と市中の預金銀行という2層からなる構造を持つ。

銀行の基本原則とは

基本原則として、**収益性**、**安全性**、**公共性**の3原則がある。

第一に銀行業資本の立場からする経費節減や効率化が求められるとともに、第二に運用銀行資本の立場からする資金調達ならびに運用の管理が求められ、とりわけ利鞘 (りざや) および資金量の確保が必要とされる。安全性の観点からすると、資金運用の確実性や分散性 (クレジット・リスクの回避) が求められる一方、流動的な管理が、重要な意味を持つ。公共性の原理は、第一に預金保護者の責任、第二に預金通貨供給者としての責任、そして第三に資金供給者としての責任、によるものである。

信用貨幣・・・基本的には支払手段として生じたもの。〔**貨幣支払約束書**〕としての性格を有する。

地金・・・日本で一般に投資対象として流通しているのは、**金**、**白金**、**銀**の地金である。

発券・・・証券類を発行すること。

証券には、**有価証券**と**証拠証券**があるが、日常的に接するのは有価証券が多い。

為替・・・**為替手形**や**小切手**、**郵便為替**、**銀行振り込み**など現金以外の方法によって、金銭を決済する方法の名称である。

発券銀行・・・銀行券発行の機能を有する銀行、日本では、**日本銀行**。

商業銀行・・・短期の預金を集め、その資金を**手形割引**のような**短期の貸出に運用**することを主な業務とする銀行。日本では**普通銀行**と同義に解する場合もある。

中央銀行・・・一国における**金融組織の中核**をなす銀行。

感想 今回の学習で今まで知らなかった事をたくさん知ることができ、将来のために大変役にたつたと思います。

調べている中でわからない言葉を、また調べるといふ事はより深い学習につながると思いました。

金融経済 ~ライフプランニング~

あなたは、将来についてどのくらい考えたことがあるだろうか。

女性であれば、いずれは結婚したい子供も欲しいと思う人も多いと思う。

また、自分が何歳まで生きることができるのか、生きるためにはどのくらいのお金が必要なのか。仕事や結婚、家庭、趣味、老後など、自分がどのような人生を送りたいのか、自分の理想としている人生を生きるには「お金」が必要不可欠になってくる。

将来のことを具体化して、それに必要な資金計画を立てること「ライフプランニング」と言う。

◎ 人生の三大資金

ライフプランは、人それぞれ異なるが、多くの人に共通しているといわれるのが、「人生の三大資金」である。三大資金とは、住宅資金・教育資金・老後資金のことである。

- ・住宅資金 家を買うためのお金のこと。買うだけでなく、借りる、親と同居などの選択肢もある。
- ・教育資金 家計において、長期的な支出となる。子どもの「学校でかかるお金」と「学校の外でかかるお金」両方のことを指す。
- ・老後資金 一般的には退職後は年金などが収入の中心。老後の資金はどのように暮らすかによって必要な金額が異なってくるため、年金だけでは不足する場合に備え、準備が大切になる。

※ どの家計においても収入よりも支出が多い家計は成り立たない。

◎ 起こりうる危険を推測する

夢はあるけれど、現実の暮らしには不安がある。もし家族が、病気や怪我をしたら、家が火事になったら、など、そんな暮らしの不安をきちんと把握することが大切だ。そのためには、家族に起こりうる健康被害などを予測し対策を練ることが必要になる。これらの不安は保険により備えることができる。

◎ 保険

病気にかかってからでは加入できる保険の幅が狭くなる。若いうちに保険に加入しておくほうが保険料も安くなるもの、無理なく続けることのできる保険を選ぶことが重要だ。

目安として、月々の保険料が2000円~3000円台であると無理なく続けられるであろう。また、クレジットカードで支払いのできる保険も増えている。月払いより、半年払い・年払いのほうが、安くなりお得だ。

◎ 一生にかかるお金

あなたは、一生にかかってくるお金の金額はいくらと考えるだろうか。

例えば、女性で大学卒~女性の平均寿命の85歳までにかかるお金をざっと計算してみると、2億6800万円のお金が必要だ。

家族の生活費 年間約485万円×38年 約1億8430万円

老後の生活費 年間約335万円×25年 約8375万円 合計 約2億6800万円

この金額は、約600万円の新車を約44台購入することが可能なほどの金額だ。

これには、物価上昇なども見込んでいない、またライフスタイルによって異なってくる。

マイホームを買いたい、子供が欲しいと考えている人も多いだろう。それにかかってくる平均支出額である。

マイホームを買う 約2969万円 教育費 約1076万円

また、私たちの家族の一員となっているペットたちを飼うためにはこれだけのお金がかかる。

ペット（生涯） 犬を飼う場合 約139万円 猫を飼う場合 約80万円

このように、私たちが、幸せに生活していくにはたくさんの「お金」が必要になる。将来の夢を実現する、自分の趣味を楽しむためには、お金の管理がとても重要になる。お金の管理をするため、また自分たちの将来を豊かにするためにもライフプランニングはとても有効であると言えるだろう。